



〈連載⑤〉

今年の夏の船旅 (その1)



大阪府立大学船舶工学科助教授

池田良穂

今年の夏は、世界最大級の「マジスティ・オブ・ザ・シーズのカリブ海クルーズ視察」への同行が予定されていた。相変わらず急成長を続けるカリブ海クルーズの現状を見るよい機会であり、7万総トンの新鋭クルーズ客船に乗れるのを楽しみにしていたが、6月下旬になって、旅行社から予定していた人数が集らなかったため中止にしたいとの連絡があった。

6月にアラスカクルーズを視察したばかりであったこともあって、今年の夏は国内の客船に集中しようということにした。

最近、国内のフェリーや客船の新造が相次いでいる。まず、この夏に初めて出会った新造客船たちから紹介してみよう。

①奄美・沖縄～阪神航路「ニューあかつき」:

7月15日、大島運輸の「ニューあかつき」レセプションに参列した。大島運輸の若い経営者陣は非常に研究熱心で、筆者の主催してきた「クルーズ客船研究会」の常連参加者でもある。6月下旬のある日、電話で「新造船のレセプションがありますか」というお誘いがあった。前日に東京で会議があり、そのまま宿泊することに

なっていたが、午前中の新幹線で帰ればなんとか間に合う。沖縄航路の船には比較的よく乗っているが、どういふわけが大島運輸の船にはまだ乗ったことがなかった。これはぜひ一度見ておきたい、というわけで喜んで出席させて頂くとお返事した。

当日、東京を朝に出て新神戸駅で下車。そこから六甲アイランドにある沖縄航路の岸壁のターミナルにタクシーをとばす。造船所で引渡されてから間もない「ニューあかつき」が停泊していた。旅客定員はそれほど多くはないが、なかなかモダンな公室、キャビンなど船内設備に驚いた。甲板の一部は木甲板となっており、これは船旅ファンにはうれしい。奄美、沖縄航路は長距離航路であることもあって旅客は次第に飛行機に取られ、旅客輸送に関してはジリヒン状態にある。しかし、この船を見て、貨物輸送中心のこの航路にもいよいよ旅客船の復活の兆しが見えてきたように思った。各種アンケートなどを見ると、船で行ってみたい所の上位には必ず沖縄や奄美がある。楽しい船旅の演出が期待される。

②レストラン船「シンフォニー2」:

7月23日、東京シーラインのレストラン船「シ

ンフォニー2」のレセプションが東京の日の出棧橋であった。ちょうど東京に居たので、昼の時間を利用して、参加することにした。この会社のホテル部門の方とは昨年のカリブ海クルーズ視察旅行も一緒したこともあり、どんな船になっているか早くこの目で確かめておきたかった。船内の設備は予想以上にハイグレードな仕様で驚かされた。デッキに張りめぐらされた木甲板も立派である。乗組員の教育も行き届いている。船内の配置などについては、前々回の本欄でもご紹介したので詳しくはそちらをご参照願いたい。

この船では、新企画として東京フィルの洋上コンサートを定期的に開くことにしている。このプレビュー・クルーズが7月29日に行なわれた。「ご夫婦どうぞ」という招待状を頂いたが、女房は都合で行くことができなかったのもので、船の世界での大先輩である山田迪生さんと一緒に出かけた。

乗船してまずラウンジで食前酒を楽しむ。やがて船は日の出棧橋を離れて、ディズニーランドの沖へと向う。60名ほどの東京フィル団員による洋上コンサートを楽しんだ後、立食のパーティが始まる。その後は、ラウンジでお酒を楽しんだり、最上階のデッキにあるカジノで遊んだり、デッキで海の風の中で語らったり、楽しみかたのパラエティは第1船のシンフォニーに比べると格段に広い。

③別府～大阪航路「さんふらわあこがね」:

7月27日、大阪南港のかもめ埠頭で関西汽船の

新造フェリー「さんふらわあこがね」のレセプションが行われた。この船は同社の純客船「あいぼり丸」「こぼると丸」の代替船として建造されたもので、秋には姉妹船も完成する。かつて瀬戸内海の観光航路の女王とも言われた関西汽船の別府航路から観光純客船が姿を消すこととなり、一抹の淋しさもあるもののこれも時代の流れであろう。

関西汽船の是則直道新社長はよく知られた大の船ファンであり、もう二十年ほど前から趣味の船の世界でいろいろとご教示を頂いている大先輩である。関西汽船の社長として関西に来られてからまだお会いしていなかったのもので、この機会にぜひお会いしてお祝いを述べたいと思い、出かけることとした。

当日、大阪南港のかもめ埠頭に出向く。岸壁には「さんふらわあこがね」が白い船体を光らせて停泊している。最近建造される瀬戸内海の長距離フェリーと変わらぬ外観は、美しい瀬戸内海の船の女王たちを次々と送りだした老舗客船会社関西汽船の斬新な新鋭船を期待していた筆者にはやや残念な思いがした。

船内を見てまわる。広いロビーとそれにつながるオープンな形のレストランはなかなかユニークだ。一通り船内を見学した後、カーデッキの一部に設営されたレセプション会場へ。是則社長の「関西汽船は創業五十年。色々問題も抱えているが、今後努力して克服していきたい。」という主旨のスピーチがあった。この船にはぜひ近いうちに乗船してみたいと思っている。